



シリーズ

武雄の治水

vol.52

～水と共に生きるまちへ～

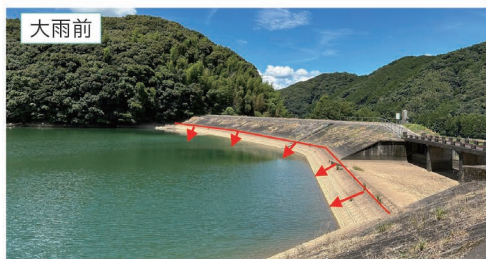
今回のテーマは

農業が支える治水対策

市内に広がる田んぼや地域のため池、用排水路は、私たちの食を支える大切な農業資源であると同時に、一時的に雨水をためて流出抑制を行うことで、大雨からまちを守る「治水」の面でも重要な役割を担っています。

●ため池の活用

大雨が予測される期間に、ため池の水位をあらかじめ下げて、空き容量を確保することで、上流で降った雨水を一時的にためることができます。今年度は、市内にある貯水量 3 万 m^3 以上のため池（水害リスクの高い橋町、朝日町、北方町では 2 万 m^3 以上のため池）48 箇所を実施し、**約 94 万 m^3** の貯水量を確保しました。



●用排水路の活用

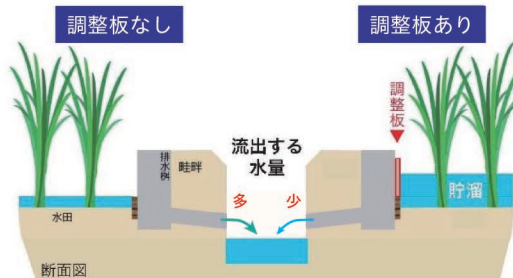
北方町の橋下地区では、地域の皆さんが自主的に、大雨が予測される際の用排水路の事前放流に取り組んでいただいております。大雨の前に水路の水位を下げ、空き容量を確保することで、雨水を一時的に受け入れ、下流への流出抑制や、水路周辺の浸水被害軽減につながります。



●田んぼの活用

大雨のときに、田んぼに降った雨を一時的にためる『田んぼダム』の取り組みを進めています。上流部で作付けをされている農家の皆さんのご協力をいただき、今年度は 4 町 11 組織（朝日町、武内町、東川登町、西川登町）、約 200ha で田んぼダムを実施し、**約 20 万 m^3** の貯水量を確保しました。

田んぼダムの効果



大雨による浸水被害を軽減するためには、河川や排水施設の整備だけでなく、地域全体で雨水を「**ためる**」取り組みを進める「**流域治水**」が重要です。

ため池や用排水路、田んぼなど、農業に関わる施設や農地で雨水を一時的にためることは、流域治水を進めるうえで重要な取り組みとなっています。

今後も「**農業の力**」を生かした治水対策を地域の皆さんとともに進めていきます。

お問合せ まちづくり部 治水対策課 ☎0954-27-7097

シリーズ武雄の治水 バックナンバーはこちらから▶

